

## 『エコライフスタイルで地球環境にやさしいまち』

### 1. 目指す姿

- ・地球環境にやさしいライフスタイルの実践
- ・Stop 地球温暖化

### 2. 指標

- ・省エネ生活 CO2 排泄 2020年に2000年比マイナス20%  
最終目標マイナス50%
- ・自然エネルギー利用 2020年に20% 最終目標 80%

### 3. 現状と課題

近年化石エネルギー使用増大による地球温暖化とそれに伴う異常気象で地球の危機が叫ばれております。たとえば、アメリカ南部を襲ったカテリーナ、バングラディッシュ、ミャンマーを襲った巨大サイクロンによる未曾有の被害。北極、南極、氷河の融解による海面上昇で島国ツバルは水没しつつあります。オーストラリアでは干ばつで農作物や牧畜に甚大な被害が起きています。人口爆発を起こしているアフリカ、中国では降雨量の減少でオアシスが消え、砂漠が拡大しています。これは食糧危機の前触れです。人類をはじめ生態系の危機です。

世界各国は化石エネルギーの争奪が激しくなっています。この課題を克服するためにはまず地下資源を有効に使いつつ地上資源すなわち太陽光、熱を中心とした自然エネルギーへの切り替えです。環境への負荷が少ない地球環境にやさしいライフスタイルの転換です。

### 4. 取組・役割分担

(1) エコライフの実践はまずエネルギーの節約です。

#### [市民の役割]

- ・電気ガス水道等光熱費の節約
  - ・省エネ家電、機器への切替 省エネ住宅へ建替、改造
  - ・マイカーをやめて公共交通や自転車の利用
- ポイントは快適性を損なわずに省エネすることです。「省エネすれば得をする快適な生活が出来る」を、「皆でやればうまく楽しく省エネが出来る」を目指して。

#### [市民、事業者、行政が協働で取組]

- ・エコライフの情報、ノウハウの普及伝達

#### [行政の役割]

- ・省エネ住宅、省エネ家電、機器推進の補助金、減税政策
- ・節水と雨水利用の呼びかけ

人口増になっても浄水施設の設備増設が避けられ財政支出の抑制に繋がる。

## (2) 自然エネルギーの利用

### [市民の役割]

- ・ 太陽光発電、太陽熱温水器の設置に1人でも多くの人が協力する。  
市民がエネルギー問題を考え、このまま行けば地球は間違いなく破滅する。後世の人に負荷を残さない緑の地球を残そうという考え方で
- ・ 雨水利用  
中水に、庭の散水利用出来、エネルギーの節約で節水になる。

### [市民、事業者、行政が協働で取組]

- ・ 市民協同発電所の設置推進  
個人では出来ないが協力できる人、企業、NPO、自治体協働で設置の推進

### [行政の役割]

- ・ 設備設置補助  
6月よりの補助金 2万円/kW上限10万円・50件では低すぎる。  
国の制度と合せて10年程度で初期投資が回収できる補助に
- ・ Green電力証書を使った政策推進
- ・ 環境配慮促進法に則った政策推進
- ・ 公共施設に装置の設置  
太陽光発電装置と合せて雨水利用装置の設置  
災害発生時の危機管理の一環として大切である。

## 5. 個別案件に関する提言

### (1) 太陽光発電所設置を強力的に推進

(太陽光発電に関して福田首相が「20年に今の10倍、30年に40倍にする」発表)

### (2) エコライフ推進体制の充実

エコライフ基本計画の策定 基本計画の進行管理  
総合的なエコライフ行政の充実 エコライフ相談窓口

### (3) 環境教育の推進

学校や地域での環境教育の推進  
広報活動の充実 ビオトープの整備

### (4) 温暖化防止、ヒートアイランド化対策の推進

屋上、壁面緑化の推進 省エネエネルギー化事業の推進  
自然エネルギー活用の推進  
中小テナントへの省エネ資機材導入に支援

## 6. まちづくりの効果

「次世代につなげる魅力のあるまち みのおに向かってエコ社会化で、一段と快適、安全、安心なまちになる。